



平成30年10月31日

新宿区立江戸川小学校

No. 641

凡事徹底 ～当たり前のことを徹底して行うこと～

省エネ対策のクールビズ期間(5/1～10/31)も終わり、季節は秋本番となりました。夕日が沈む時刻もだいぶ早まり、朝晩の冷え込みを感じる今日この頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

気候が爽やかになり、子供達はクラスで長縄の記録に挑戦したり、学校対抗ドッジボール大会(11/23)に向けてドッジボール練習で汗を流したりして、「スポーツの秋」を満喫しています。また、「読書の秋」の取り組みとして、読書旬間(10/3～19)で読み聞かせや味見読書、チャレンジ読書などを行いました。それを機に、再び本に親しむ子供が増加中です。「芸術の秋」の行事としては、11/16～17に『展覧会一つくりだす喜び・豊かな心 2018ー』が行われます。子供達は、展覧会に向けて今作品の仕上げを頑張っているところです。今回の展覧会のスローガンは、「～個性豊かな花開くアートを生み出せ～ソウゾウを超えた作品の世界」です。[ソウゾウ…「想像」と「創造」の二つの意味を込めています]この2日間は体育館が素敵な美術館へと変貌します。保護者や地域の皆様に、ぜひ173名の児童による個性豊かなアート作品をご堪能いただきたいと思います。

さて、今月は本校の日々の生活の中で大事にしていることを紹介します。それは、『凡事徹底(ほんじてってい)』です。この言葉の意味は、「凡事、すなわち当たり前のことを徹底して行うこと」ですが、一方で、「当たり前のことを徹底して行い、真似できないくらい一生懸命やる」という意味も持ち合わせています。このことは、子育てにおいても学校生活においても大切なことだと思います。毎朝気持ちよくあいさつをすること、宿題を忘れず毎日行うこと、感謝の気持ちをありがたい言葉で伝えること、玄関の靴をきちんと揃えることなど、例を挙げればきりがありません。私達の周りには凡事(当たり前の平凡なこと)がたくさんあります。しかも、この凡事はやって当たり前のこととしてあまり注目を浴びずに、その行動は評価を受けることがあまりないかもしれません。しかし、この凡事の積み重ねが、子供達の心を育て豊かな人間性を育んでいくのです。

昔、ある高校野球の強豪校の監督の話の記事を読んだことがあります。そこでこの「凡事徹底」の大切さを語っていたことが印象に残っています。この監督の話は、「その年のチームが強いかどうかは、毎日15分間の散歩中のゴミ拾いの様子を見ていれば分かる」というものでした。「誰でもできることを徹底的に心を込めてできるチームは、野球でも一流になれる」と続いています。逆に言えば、簡単なことを徹底できないようでは心に弱さがあるということでしょう。江戸川小の子供達にも、ぜひ凡事徹底を心がけ、美しく逞しい心をもった人に成長してほしいと思います。

本校では、教職員全員でこれまで半年間の子供達の生活(登下校、授業、給食、掃除、休み時間など)を振り返りながら、「当たり前」にやっつけてほしいことで徹底できていないことはないか?と、日々の指導を見直しているところです。教職員全員で共通理解・指導しながら、引き続き凡事(きまりを含む)が徹底できるように取り組んでいきたいと思っています。家庭でも、ぜひ繰り返し徹底して行うべきことを親子で話題にし、今一度生活を見直してみたいと思います。

<校長談話室> 11月13日(火) 10:00～12:00

お一人でも、お誘い合わせでも、お気軽にどうぞ

[連絡先] 3266-1602 副校長まで

11月の生活目標

手をきれいにあらおう

習熟度別算数指導について

算数の授業では、教室と算数室に分かれて授業を行っており、各単元に入る前には、これから学習する内容にかかわる既習事項の定着度を調査し、その結果と児童の希望とを照らし合わせてクラス分けをしています。児童は自分の学習状況に合ったクラスを選び、私達教員は個一人一人の習熟度に応じた指導を心掛けています。

それぞれの学習内容を確実に定着させるために、日常場面と関連した内容を取り上げ、学習した内容を活用しようとする意識を引き出したいと考えています。また、理解した内容を友達と伝え合う活動を多く取り入れ、児童の説明する力の育成にも力を入れていきます。

展覧会へようこそ

木の葉の色や流れる雲、頬を掠める風に秋の気配が感じられます。芸術の秋と昔から言われますが、そういう季節になってまいりました。

今年はいよいよ2年に1度の展覧会の年です。子供たちは、お家の方に作品を見て頂くのを楽しみに江戸川小の片隅の図工室や教室で絵筆を握ったり、様々な材料や道具を使ったりして作品作りに取り組んでいます。

作品作りの過程では、自分の力で作り上げることを大切にしています。はじめから最後まで自分の力だけで仕上げた作品はまさにその子の心がそのまま映し出されています。はみ出していたり、へこんでいたり、傾いていたりもまた個性です。逆に真っ直ぐ几帳面なもの、また個性です。一人一人の子供たちが宝物であるように、一つ一つの作品も宝物です。

秋のひと時、江戸川小の子供たちの作品を眺めながら一人一人の心を感じていただければと思います。